

算命学中庸

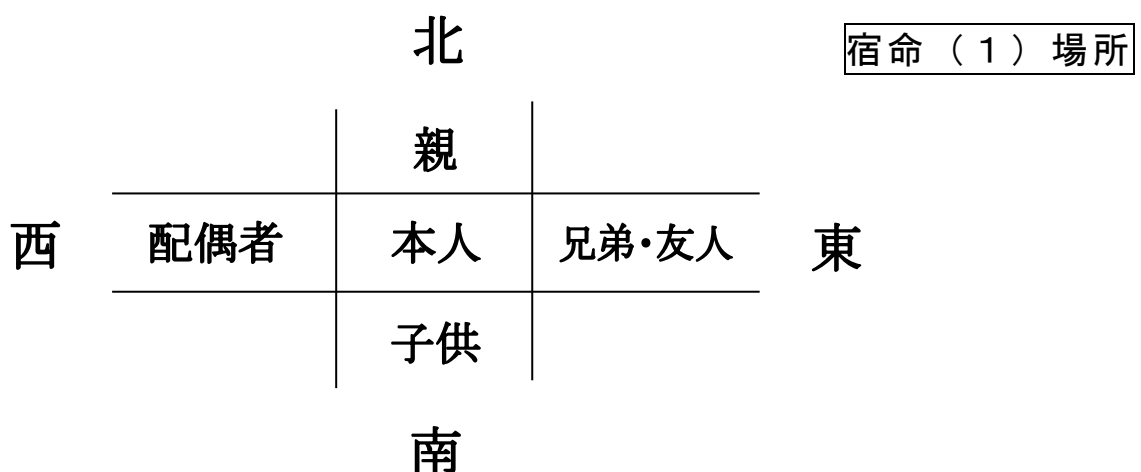
【初年】 49 回目

49 目の授業はこのページからです。

授業科目 【人体図の観方】 ①

【初年】 49 回目 【人体図の観方①】 01

□ 人体図の観方 ① (じんたいずのみかた) 『生剋比』
しょうこくひ



人体図の見方として、人物の場所だけやっています。

	親	
配偶者	自分	兄弟・友人
	子供	

宿命（2）場所

人体図の〔真ん中は自分の場所〕〔自分の上が親の場所〕
 〔下が子供の場所〕〔向かって右側は兄弟・友人の場所〕
 〔向かって左側は配偶者の場所〕です。

☞ 人体図に星を載せて話を進めます。

〔たとえば〕 A子さんの人体図 ⇒ 宿命（3） A子

	龍高星	天堂星
車騎星	司禄星	禄存星
天馳星	調舒星	天南星

人体図は、縦に上から〔龍高りゅうこう〕〔司禄しらく〕〔調舒ちようじよ〕、
 右手〔禄存ろくぞん〕、左手〔車騎しゃき〕と読みます。

♪♪ 声に出して読んでください。

従星は肩から [[^{てんどう}天堂]] [[^{てんなん}天南]] [[^{てんそう}天馳]] と読みます。

♪♪ 声に出して読んでください。

このように、肩というのは「初年期」を意味し、「中年期」「晩年期」の星を順番に読みます。

このときに『○○^{せい}星』は省略して読みます。

人物の場所と、十大主星の五行（木火土金水）は覚えて頂けましたか……。

十大主星の五行というのは〔龍高星〕は水の星だとか〔司禄星・禄存星〕は土性の星、〔調舒星〕は火性で、〔車騎星〕は金性です。

それを覚えていると、占いがスムーズにいきます。

はじめのうちは、ご自分で人体図を書き、そこに各星の五行を書いて覚えるとよいでしょう。

あるいは、人体図の十大主星の脇^{わき}にでも、各星の五行（木火土金水）を書いておくとよろしいと思います。

宿命（4）A子

	龍高星 ^水	天堂星
金 車騎星	司禄星 ^土	禄存星 ^土
天馳星	調舒星 ^火	天南星

まずは、これらの星を用いて、人間関係の観方を勉強していきます。

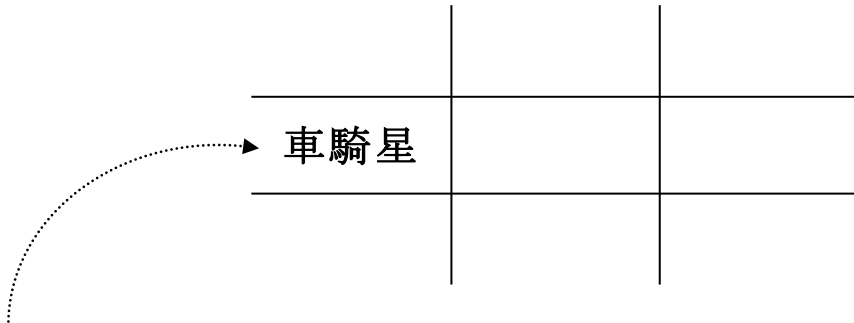
⇒ 直接的に読むと、親の場所／第四命星に〔龍高星〕がありますので、改革心がある親だなと……、子供の場所に〔調舒星〕があるから、淋しがり屋で空想力がある子供ではと、配偶者の場所に〔車騎星〕が載っていますから、行動力がある働き者の配偶者だなと……そのようにいえますけど、星の意味をただ並べただけでは、上手な占いにはならないわけです。

……ここの^{かいしゃく}解釈が大事なところなのです。

この人体図は、親が〔龍高星〕だと書いてありますから、「改革心がある親」だと、配偶者の場所／第一命星に〔車騎星〕と書いてあるから、「働き者で行動力のある配偶者」だと、いうだけでは、正しく人体図の意味を理解したことにならないのです。

そこでここでは、正しく意味を読み取る方法を理解して頂きたいのです。 ➡

宿命（4）A子 の人体図を書き直します ⇒ 宿命（5）A子



A子さんの配偶者の場所／第一命星を〔例にして〕考え
ましょう。

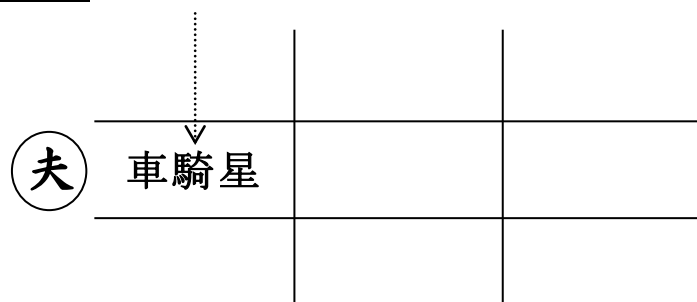
配偶者の場所に〔車騎星〕が載っています。

星の意味としては、行動力・働き者です。

行動力・働き者

話をわかりやすくするために、配偶者というよりも、
ハッキリと「A子さんの夫」として、観ていきます。
A子さんは女性なので、ここは『夫の場所』です。

宿命（6）A子 夫の場所・第一命星



A子さんの人体図は、夫の場所に〔車騎星〕があり、

そこで「貴方の夫は行動力があって働き者の夫です」と鑑定依頼者に告げたら、「いや、うちの夫は怠け者で、全然働かないですよ」と、彼女はいうかも知れません。

「えっ、おかしいわ、間違ってたのかしら占い……」
それで終っては、まったく占ったことにはならないのです。

そうしますと、第一命星に〔車騎星〕があるというのは……どういう意味なのかということ、正しく理解しておかないといけないわけです。

⇒ 順番に話しを進めます。

配偶者の場所に〔車騎星〕があるというのは、車騎星の質をもつ夫に縁がある人体図です。まずはそのことが基本になります。A子さんは、車騎星の性質を有する夫に縁があるわけです。

算命学的には「あなたは車騎星の夫と縁があります」という言い方になるのですが、「縁があります」という部分を、正しく理解しておいて頂きたいのです。

どのように解釈するのか……ということですが。

まずは、つぎのようになります。

⇒ A子さんの人体図では、夫の座る場所に〔車騎星〕があるから、「行動力があって働き者の夫と縁があります」といっても、それはあくまで、A子さんの人体図にそのように書いてあるだけの話です。

そこで夫の生年月日を訊くと、「ええと、どっちだったかしら……」となると、この時点では、あやふやなので(1日違ってダメ)夫の人体図を出せないわけです。

夫が車騎星を〔もっているのか〕〔もっていないのか〕人体図を出さないと、それがわからないのです。

つまり、実際に夫の人体図を出して観たときに、行動力があって働き者だとは、書いてないかもしれないのです。

そのために、ここの意味合いを正しく理解しておくことが、とても重要になってきます。

もう一度いいますと——A子さんの夫場所に〔車騎星〕があるので「夫は行動力があって、働き者の夫です」

と書いてあるのは、あくまでも、A子さんの人体図を見てだけの話です。　ここまでよろしいですか？

実際に夫の人体図を見たら、働き者で行動力があると、書いてないかも知れないし、書いてあるかも知れないわけです。

そうしますと、つぎのことがいえます。大切ですよ。

A子さんが、行動力があって、働き者の夫と結婚したら、A子さんにとっては、「宿命どおりの結婚相手」ということになります。A子さんにとってですよ。

このことは、おわかりになりますでしょうか……？

繰り返しますが「夫は行動力がありますよ」と書いてあるのは、あくまでもA子さんの人体図のなかにそう書いてあるだけの話です。

夫の人体図には、そうは書いてないかもしれません。

そうしますと、A子さんが結婚して、自分の人体図の配偶者の場所に、本当に働き者の夫が座ったら……、つまり、本当に働き者の男性と結婚して、その男性が

A子さんの夫の場所に座わったら“座ったら”という
 意味は、A子さんと結婚した男性は、どなたでも強制的
 にA子さんの夫の場所に座られます。彼女が結婚
 するまで、第一命星は空席だったと考えてください。
 A子さんが結婚したら、その場所には1人の人物しか
 座れません。1人の座布団しか置かれていないのです。
 このことはどなたにもいえます。

宿命（7）A子

第一命星は、A子さんの配偶者（夫）が座る場所です。



A子さんが結婚したら、夫座（夫の座る場所）には、結婚相手
 の男性が座ります。この場所は夫となる人物だけしか座れな
 いのです。結婚前は空席です。誰も座れないのです。

A子さんの人体図の第一命星／夫の場所に車騎星があ
 りますから、A子さんが、働きもので行動力の男性と
 結婚することが出来れば、A子さんの宿命において、

この部分については、宿命どおりの結婚をしました。
ということになるわけです。

そうしますと、本当に行動力があって、働き者の夫が
夫座に敷いてある座布団に座ってくれたら、A子さん
はどう思いますか……？ そう満足しますよね。

本当に働き者の夫であれば、A子さんは満足します。
つまり、自分の人体図に書いてある車騎星の質の男性
であれば、適合している夫ということです。

実際に男性が本当に働くことが好きで、A子さんのた
めに行動を惜しまないのであれば適合しています。

そして、夫となった男性の人体図を観たときに……、
〔夫もそれを望んでいる〕と書いてあれば、まったく
問題はないのです。

……ところが、A子さんの結婚した男性が、あまり働
き者ではない人物で、行動力もあまりないとしたら、
その夫は無理やり働かされて、つらい思いをさせられ
ているかもしれないわけです。

夫は適度に働いて、樂をしたい人物かも知れませんよ。
必ず、A子さんが、自分の人体図に即した人物と結婚
するとは決ま^っていません。樂をしたい質の男性だと

A子さんには、夫が怠け者に見えるかも知れません。

Aさんの人体図の夫の場所に、車騎星が載っていますから「働き者で、行動力の夫と縁がある」と書いてあるわけですから、そのような質をもつ男性と結婚すると彼女の宿命どおりです。

車騎星の質をもつ男性と結婚をすると、

Aさんにとっては宿命どおりである。



夫が働き者であると、Aさんは満足する。

このようにいえるのです。

車騎星の質をもつ夫と結婚すると、Aさんにとっては宿命どおりです。彼女の宿命が満足します。

逆にいえば——働き者の夫でなかったとしたら、Aさんは不満足になります。

仕事をバリバリやるタイプの夫であれば〔車騎星〕をもっていない夫でも「ああ、いい夫だわ」となるわけ

です。そうでない質の夫だと、夫に対して、だんだん不満が出てくるようになります。

ここまでおわかりになりますでしょうか……？

∞ 今度はつぎのようなことがいえます。

A子さんと結婚した男性は、A子さんの人体図のなかで、夫の場所に座らされることになります。運勢の上で座らされるわけです。

このことは、誰でもおなじです。

〔たとえば〕 Yさんが男性だとすれば、Yさんと結婚した女性は誰でも、Yさんの人体図の妻の場所／第一命星に、運勢の上で座ることになります。

第一命星にどんな星が載っていても、そのようになります。

それゆえに、A子さんと結婚した男性は、誰であっても、どんな宿命の男性でも、A子さんの夫の場所に、運勢の上で座らされることになります。

結婚して、そこには——そこには「行動力があって、働き者が座る場所」と書いてあるわけです。

ですから、どの男性でも（車騎星がない男性でも）そこに座ることになります。そこに座ると必然的に〔車騎星〕の質を与えられてしまうことになります。

参考・必然的〔必ずそうあるべきさま〕

車騎星をもっていない男性にとっては、苦痛かもしれません。

A子さんと結婚した男性は、だれでも車騎星の場所に座られる。

A子さんと結婚した男性は、車騎星の場所に座られますから、簡単に言えば、働き者の烙印らくいんが押されてしまうのです。

しかし、さきほども書きましたけど、実際に夫になる人物に車騎星は1個も無いかも知れないですよね。

夫になる男性の人体図には、車騎星が1個もないとすれば、行動の星が無いという男性が、A子さんと結婚してしまうと、車騎星と書いてある夫の場所にイヤでも座らせられますから、A子さんの宿命によって、夫になった男性は、お尻をパンパン叩かれて、働き者にさせられてしまうともいえます。

A子さんは、働き者の夫であれば満足するわけですから、ここに座った夫が怠けていたら……もっと働け、もっと頑張れ、そう言いたくなるのです。

A子さんの宿命がもっと働きなさいというわけです。ゆえに、男性はイヤでも、ある程度は働かされるようになってしまいます。

このようなことが、運勢上で起こってきます。

もともと、働き者の人が、働き者の場所に座るのであれば、適材適所だということになりますから、A子さんの夫にとって、ふさわしい人物となります。

ここまでは、おわかりになりますでしょうか……？

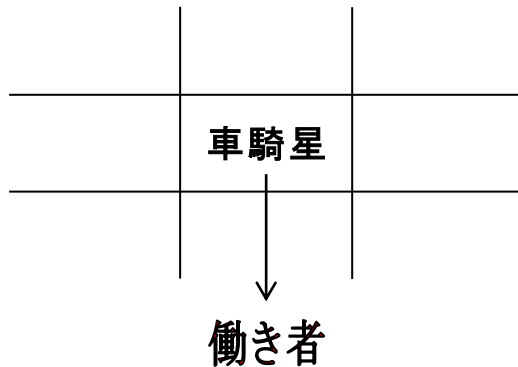
☞ そうしますと、もともと働き者の人体図とは……
基本的にどのような人体図でしょう……。

人体図でいえば、人体図の真ん中・主星に〔車騎星〕がある人物だとよろしいですね。

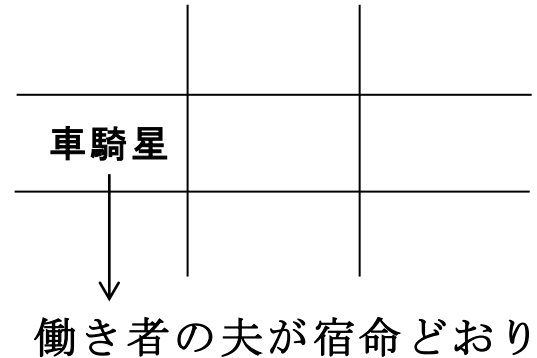
そこで今度は、夫となる人体図と照らし合わせて観るわけです。夫の主星が〔車騎星〕だとしたら…… ➡

宿命（8）A子と夫

夫



A子さん



主星が〔車騎星〕の男性が、A子さんの夫場所に載っている車騎星の場所に座るわけですから、男性にとっては、なんの抵抗も無いのです。男性にとって当たり前感覚といえます。 おわかりになりますか？

さきほどは、A子さんと結婚した男性は、A子さんの夫の場所に座らされると言いましたが、もともと主星が車騎星の男性が車騎星の場所に座る（働き者の夫が宿命どおり）なわけですから違和感がないのです。

自分は働き者だと認めている男性が、A子さんが求めている働き者の夫の場所に座るので、この部分はお互いに満足です。

そうしますと、こういう組み合わせの男女というのは「相性がよいですよ」ということは、働き者の場所に

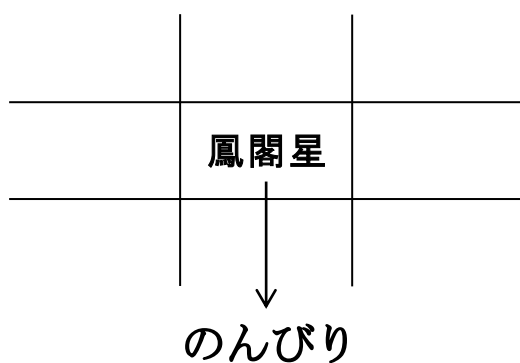
座るので、わるので自然に座れます。あるいは、座り心地がよいのです。

夫が「じゃあ、仕事で頑張るよ」といえば、A子さんは「貴方頑張ってね」と、夫の仕事を優先する家庭が築かれて行くようになるので、二人ともが満足です。

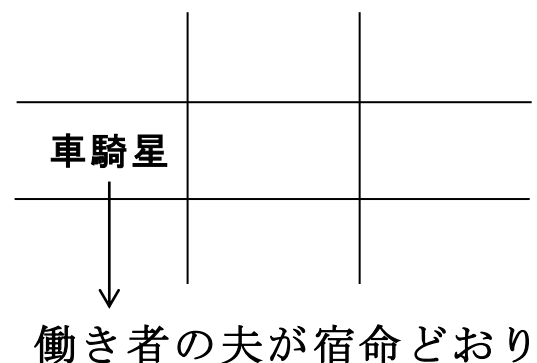
ところが……夫の人体図を出したら、主星が鳳閣星だとします。

宿命（9）夫とA子さん

夫



A子さん



A子さんの夫の場所は車騎星です。

夫の主星は鳳閣星でのんびりした夫です。

それなのに、A子さんの夫の場所には、働き者の夫を望むと書いてあります。

つまり、のんびりの夫が、働き者の場所に座らなければならぬのです。

この二人の姿がどうなるのかといえ、A子さんが、夫をもっと働かせようと、「車騎星の性質のような夫になってね……」といったとき、夫が頑張って車騎星の質になろうと努力すれば、A子さんは満足するでしょうが、夫は不満足になるはずで。

夫の本来の質は〔鳳閣星〕の性格なのに、A子さんと結婚したために、車騎星の夫を演じなければならぬので、夫は不満足でストレスを感じます。

あるいは、鳳閣星をもつ夫が、「仕事は自分のペースでのんびりやるのがいいんだ」といって、あくまでも、その姿勢を変えなければ、夫は満足でしょうが、A子さんは、夫に対して不満が出てきます。

そのどちらかになるということです。

こういうお二人は、夫が働き者〔車騎星〕の質を出せばA子さんは満足しますが、夫は〔鳳閣星〕なのに、車騎星の質をやらされると不満足になります。

- ・ 夫が車騎星の質を出そうとすれば、A子さんは満足しますが、夫は不満足。
- ・ 夫が鳳閣星の質を変えなければ、夫は満足するけど、A子さんは不満足。

行動力のある人が好きなのに、夫はいつものんびりしていると、A子さんが不満足になります。

夫のほうは、本来の自分の姿のままでいられますから満足します。

こういうふうを考えるわけです。

この二人の姿……おわかりになりますか……？

☞ もう少し明確に、2人の相性が良くないという判断の基準を、『相生』『相剋』『比和』の関係をつかって、観ていきます。

いくつか人体図の例を挙げて見てゆきましょう。 ➡

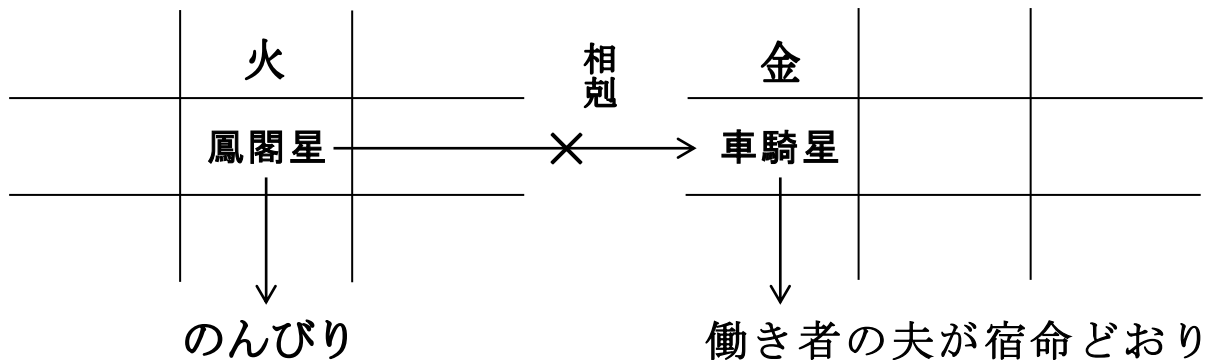
そこで〔鳳閣星〕と〔車騎星〕を五行になおします。

〔鳳閣星は火性〕〔車騎星は金性〕で相剋関係になっています。

宿命（10）夫とA子さん

夫

A子



（火→×金）と相剋になっています。

火炎が刃物などの金物を溶かしてしまう姿です。

火性と金性は相剋で、そもそもソリが悪いのです。

それゆえに、〔のんびり〕だとか、〔働き者〕だとか、そのことは、後から付け加えればよいのです。

ここでの観方は……〔相剋になっているから相性が悪い〕

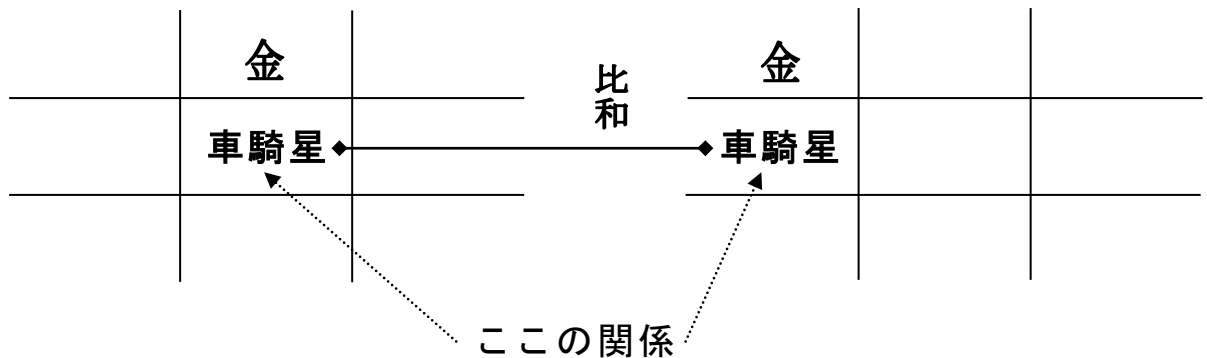
〔比和だから相性が良い〕とか、そのようにして観るわけです。

夫とA子さんを〔例〕にして……ここでの話をまとめると、つぎのようになります。

宿命（11）夫とA子さん

夫

A子



宿命（11）夫とAさんは、夫の主星は〔車騎星〕です。Aさんの配偶者の場所に載っている星も〔車騎星〕です。この関係では〔相手の主星〕と〔Aさんの配偶者の場所の星〕が、『比和』の関係であれば【○】です。相性は良いです。

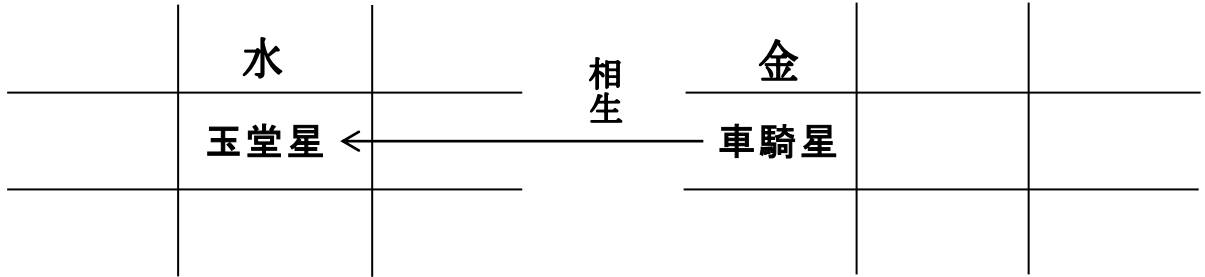
この関係が『相生』になっていたら【△】です。

宿命（10）夫とAさん のようであれば【×】、相性は悪いです。

宿命（12）夫とA子さん

夫

A子

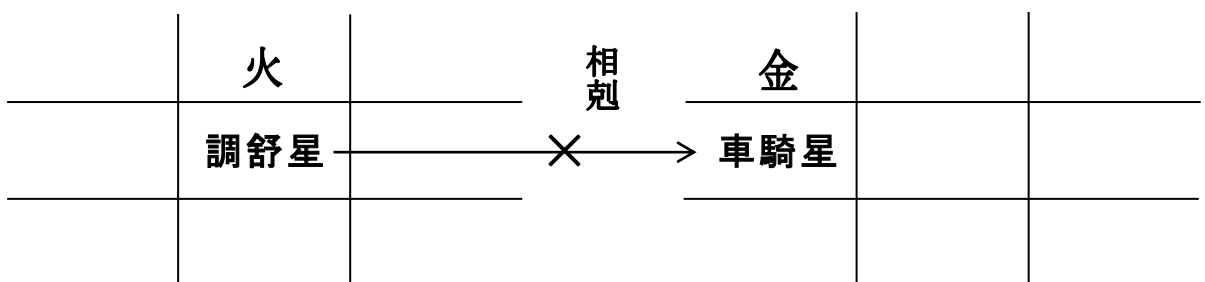


宿命（12）夫とA子さん のように、相生そうしょうになっていたら{△}です。相性は普通です。

宿命（13）夫とA子さん

夫

A子



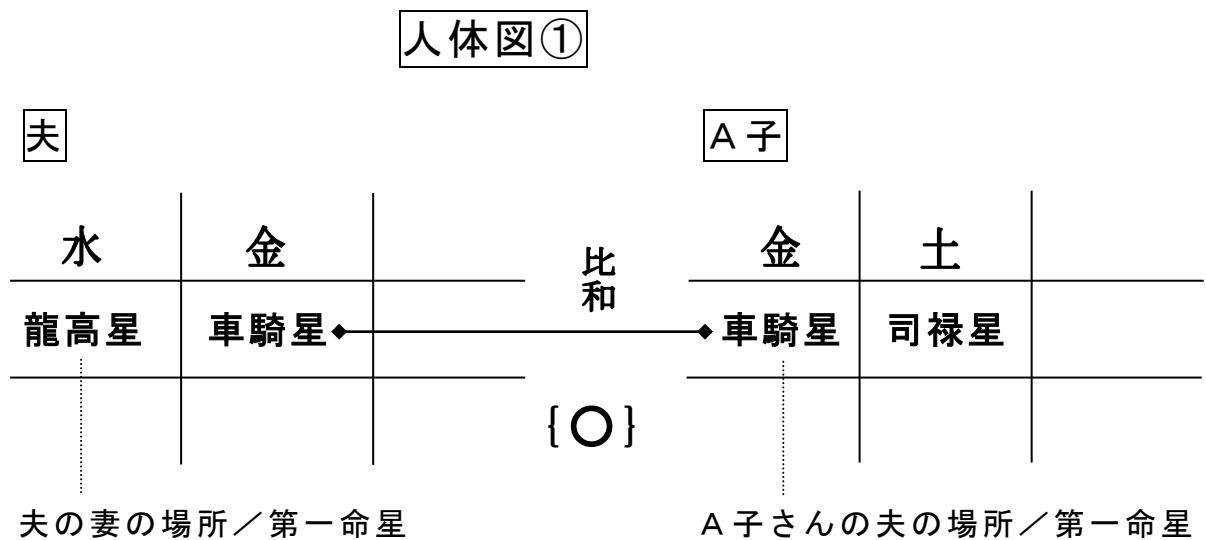
宿命（13）夫とA子さん のように、相剋そうしやくになっていたら{×}です。相性は悪いです。このように占ってください。

夫の主星と、自分の夫の場所を比べて比和なら {○} です。相生なら {△} です。相剋なら {×} です。

☞ これは当然、逆も観なくてははいけないわけです。

A子さん自身が、相手の男性の妻にふさわしい人なのかどうかです。それも観なくてははいけません。

そこで——人体図を具体的に作りします。



人体図① のAさんは、夫の場所が〔車騎星〕です。

Aさんの主星は〔司禄星〕です。

彼女が夫の人体図を出して見たら、夫の主星は〔車騎星〕で、夫の妻の場所に〔龍高星〕があったとします。

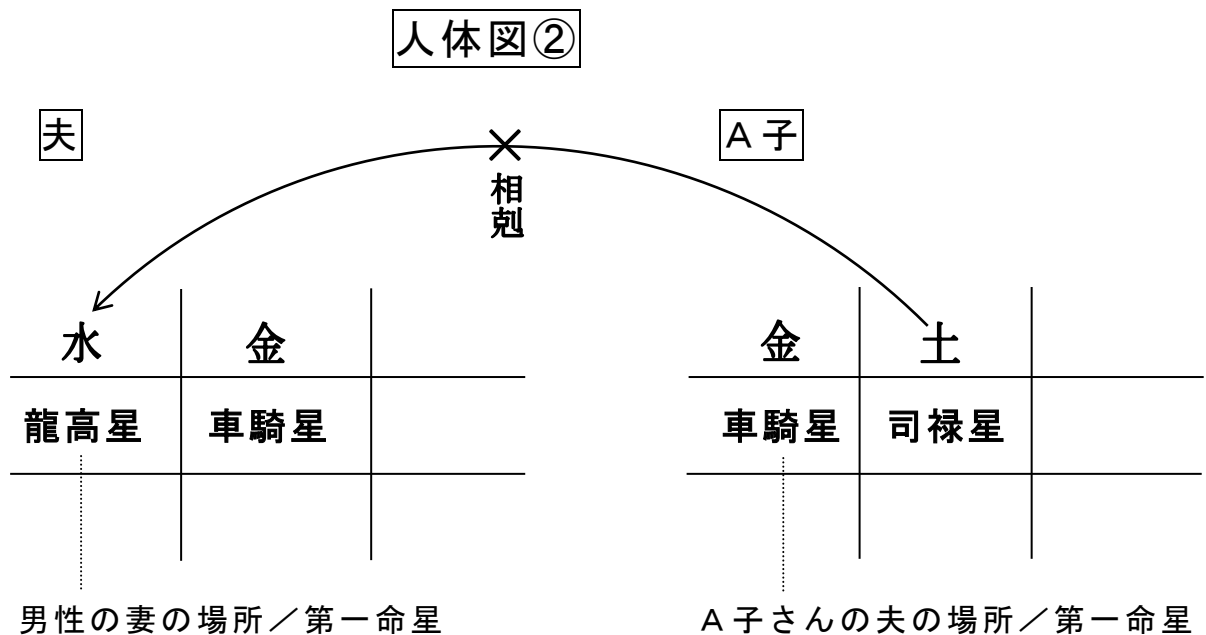
そうしますと、主星が〔車騎星〕の夫が、Aさんの人体図の夫の場所に載っている〔車騎星〕のところに

座るわけですから、**人体図①** の^{あいしょう}相性は {○} です。

主星〔車騎星〕の夫が、A子さんの夫の場所に座りますから、ここはピッタリと星が一致しています。
比和だから相性が良いです。

星の陰陽が違っていても {○} ですよ。

金性の夫が、金性の場所に座るので {○} です。



ところが、逆に、A子さんの主星は〔司禄星〕です。
夫の人体図の妻の場所を見ると〔龍高星〕で水です。
(土→×水) と相剋関係になっていますね。

人体図② では、A子さんの主星〔司禄星〕は、相手の男性の妻の場所に座るわけです。

相手の第一命星に載っているのは〔龍高星〕ですから（土→×水）と、相剋になっています。

〔司禄星〕のA子さんが、〔龍高星〕の椅子に座るわけです。

その姿は（土→×水）と相剋ですから〔×〕です。

A子さんにとって、〔車騎星〕の夫なら満足でした。

しかし、夫の側に立つとどうでしょう。

自分の人体図の第一命星・妻の座る場所には〔龍高星〕があります。

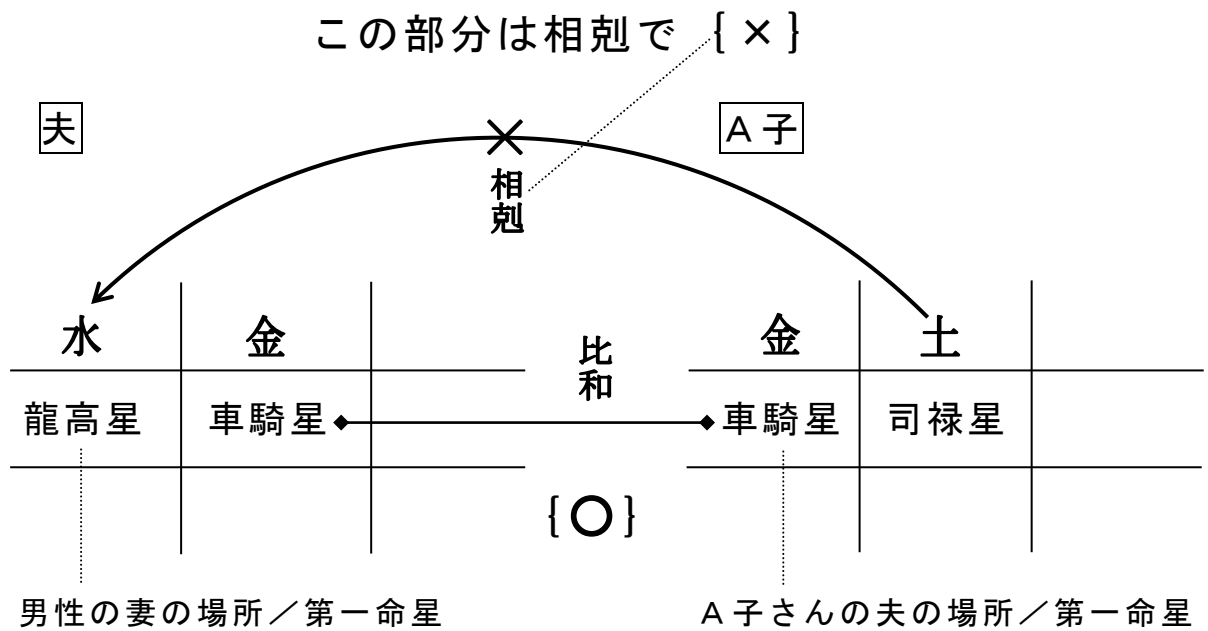
〔龍高星〕は改革心をもつ知恵の星です。

つまり、夫はなにかを改革するような知恵のある女性が好きなわけです。

ところが、A子さんの主星は〔司禄星〕で家庭的な星です。

そうしますと、男性は〔私の妻は家庭的で面白くないよ……もっと改革心のある変わった女性が良かった〕というふうになるわけです。

人体図③



人体図① は {○}

人体図② は {×}

そうしますと 人体図③ でトータルすると {△} だと、
考えればよいですね。

☞ 具体的にいえば、A子さんは〔車騎星〕の質をもつ
夫に満足します。

A子さんは夫の車□星の質に満足

夫の行動力のある質には満足です。

ところが……夫にいわせれば、妻の司禄性は家庭的で

堅実な星ですから、妻の堅実な質は不満です。

夫は妻の家庭的・堅実なところは不満

夫としては、〔龍高星〕の妻であれば宿命通りなのに、

〔司禄星〕の妻が来てしまうわけです。

普通に考えれば——家庭的な妻のほうが良いかもしれないけど、この夫にとってはダメですね。

家庭的で堅実過ぎて“つまらない”と思うわけです。

人間関係は、どなたでも、相手のすべてが好きとか、全部が嫌いとか、それはまずないでしょう。

この部分は気に入っていると、相手のこういう部分は気に入らないとか、そのようなところを深く読んでいくと、答えが出てくるわけです。

人体図③ のような組み合わせの夫婦を見たら、このような夫婦になってゆくと占うわけです。

☞ ここでの場合は、両者の〔主星〕と〔配偶者の星〕だけしか観ていませんが、これとおなじ要領で……

この状態をさまざまな人物に当て嵌めます。

〔たとえば〕親の人体図を出してみて〔自分と親はこの部分の相性がどうだとか……〕

自分の人体図の子供の場所・第二命星と、子供の人体図の親の場所・第四命星を比べて見たときに、自分の人体図では子供の場所には〔調舒星〕が載っているけど、実際に子供が生まれたら「主星が〔玉堂星〕の子供だった」とか、「主星〔車騎星〕の子供が生まれた」とか、いろいろとあり得るわけですよ。

自分に、何人か子供がいれば、その子供のなかでも、この子と気が合うとか、この子と気が合わないとか、そういう相性あいしょうの違いが出てくるわけです。

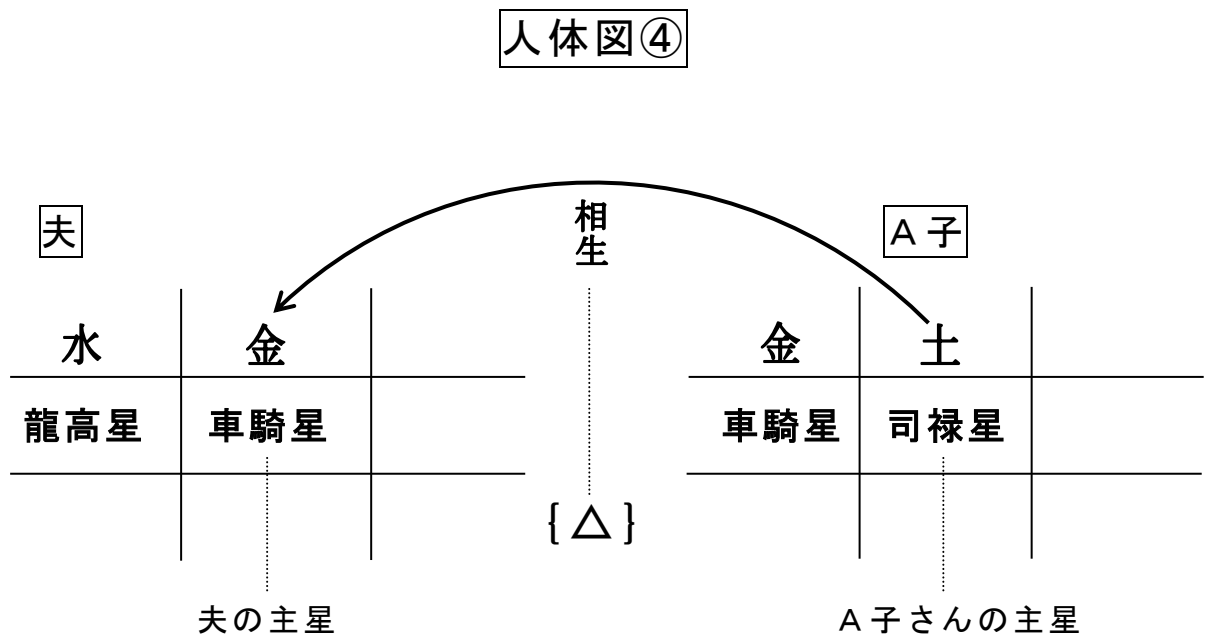
これからも、このような観方が出てきますし、つかうようになります。

☞ さて、いままでの話とは、頭を切り替えていただいて、話を進めます。

もう1つ……つぎの話として、観ておこななくてはいけない箇所があります。 ➡

人体図④ を見てください。

A子さんの〔司禄星〕と配偶者の〔車騎星〕の関係が
（土→金）と相生になっています。



このことは、親の場所とか、友人の場所とか、子供の場所とか、すべてにいえるのです。

〔たとえば〕親の場所と自分が相生関係そうしょうになっているとか、自分と子供が相生関係だとかです。

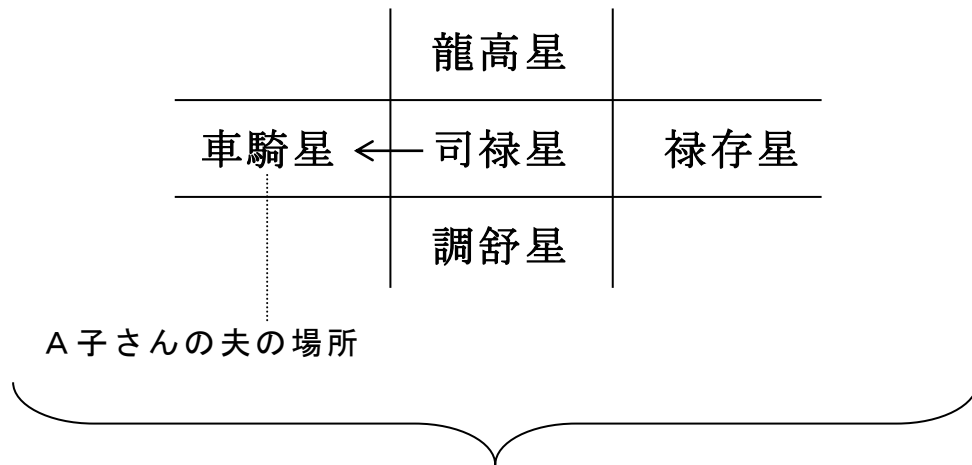
今度はA子さんの人体図に星を載せます。

人体図⑤ ➡

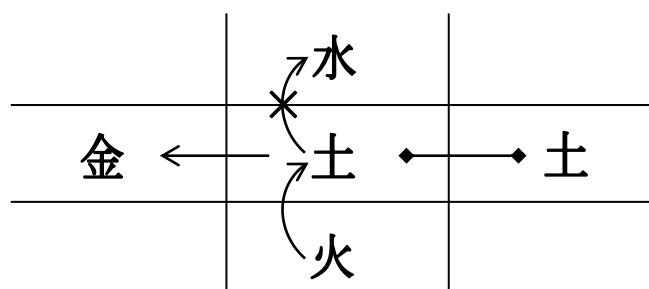
人体図⑤ A子さんの人体図に星を載せました。

そうしますと、自分と配偶者〔第一命星〕は、(土→金)と相生になっています。

人体図⑤ ⇒ **A子さん**



星を五行になおした



親とは (土→×水) と相剋になっています。

子供とは (火→土) と相生になっています。

人間関係を観るときには、どこが『相生』になっているのか、どこが『比和』になっているのか……とかを観ます。

〔たとえば〕夫婦関係であれば、どのような夫婦関係になっているのかという要点になってきますよね。

参考・要点〔物事の重要な箇所。大切なところ〕

そこで、先ほどから遣^やってやってきましたけど——、A子さんの第一命星には〔車騎星〕載っています。彼女には働き者の夫が宿命どおりです……とかの話は一旦脇^{いったん}に置いて考えます。

⇒ 今度は **人体図⑤** で、A子さんの主星〔司禄星〕と配偶者の場所の〔車騎星〕関係を見ると、(土→金)と二人が『相生』になっています。

このように自分と、相手の人体図を比較したときに、お互いの関係が『相生』になっているとは決まっていせん。「僕と妻は『相剋』だよ」そういう人体図もありますし、あるいは『比和』かもしれません。

⇒ その意味でもうひとつ……相性^{あいしょう}と人間関係の繋^{つな}がりを観なくてはいけない要点があります。

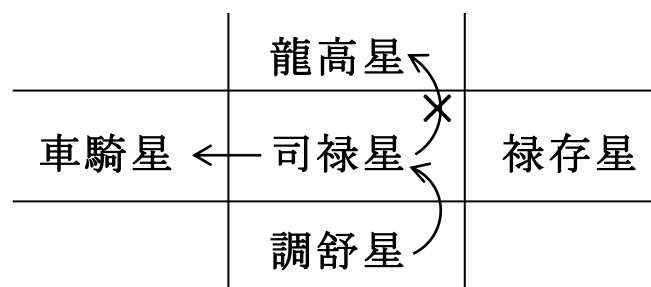
自分の宿命のなかで、相手との関係で『相生』『相剋』『比和』……どの関係なのかが重要になります。

そこで、A子さんの人体図を^{もと}基にして、A子さん自身がまわりの人と『相生・相剋・比和』のいずれの状態かを観ていきます。

A子さんの人体図は、（土→金）と、自分のほうから、配偶者を生じています。

そして（土→×水）と、彼女は親を^{こく}剋しています。子供は（火→土）と、自分を生じています。

人体図⑥ ⇒ A子さん



A子さんの人体図は、このようになっていますが……

〔相手と相生になっている場合は、どのような関係になるのか〕〔相剋の場合はどういう関係なのか〕——

〔比和だとどうなのか……〕ということが、わかれば占いができますよね。

そうしますと、この姿に関しては『相生』『相剋』『比和』の基本的な意味合いを思い出していただければよいのです。

☞ 『相剋関係』 から始めます。

本来『相剋』はやっつけるような関係です。

相剋 ⇒ やっつけるような関係

〔たとえば〕彼女の人体図のなかでは（土→×水）と
本人が親を相剋しています。

人体図⑦ ⇒ A子さん

	水 龍高星	
車騎星	土 司禄星	禄存星
	調舒星	

※ 龍高星と司禄星の間には、土から水へ向かう矢印と×の記号が描かれています。

主星の〔司禄星〕が、親の場所・第四命星に載っている〔龍高星〕を剋しています。

（土→×水）と、自分が親をやっつける関係といえ、少し表現が強いです。

そこで〔土は水を堰き止めることができます〕とか——、
または〔水に泥が混ざると、水が濁って汚れてしまう〕……
とか表現するわけです。

人間関係が『相剋』の場合であれば、お互いに反発する。そういうふうにと考えるとよいでしょう。

人間関係で相剋 ⇒ お互いに反発する

A子さんの人体図は（土→×水）と、自分が親を相剋していますから、彼女は親に反発する子供ですよ。
あるいは、厳しい目で親を見ているとか、親に厳しく接します。と解釈します。

相手に厳しく接する

相手を（土→×水）とか（火→×金）とかで、相剋している場合には、“相手をやっつける”と言わないで、相手に反発する、相手に厳しく接する、そういう人になります。と覚えてください。

⇒ 今度は、この部分だけを^{ぼっすい}抜粋して考えます。

〔相手に反発したり〕〔厳しく接したりする〕ということとは、相手をやっつけたり、^{いじ}苛めたりするような関係

だと、思いやすいわけです。

しかし〔相剋だから、相手と仲が悪い〕とか〔相生だと仲がよい〕という意味とは違うのです。

仲が良い、仲が悪い、それとは別な話なのです。

A子さんは、親とはすごく仲良くて、親思いの人物かもしれないのです。

親子仲が良くて親思いなのに、親に反発したり、親に厳しく接したりする……。

どういう姿なのかといえば〔相手の間違いを指摘して注意を^{うなが}促す〕とかの意味もあるのです。

つまり、相手に^{きび}厳しく接することで、相手の欠点を^{なお}直すことにつながるわけです。

〔たとえば〕A子さんが親に対して「お母さんここはダメじゃないの……」とか、「お父さんここ直さないとダメよ……」とか、文句が多くなったりするわけです。

「お母さん、もっと頑張って、リハビリしないとダメよ」ということで、お母さんの弱点を指摘してあげるとかです。

つまり、親を鍛えてあげることにつながるはずですよ。

その意味で、『相剋』は相手を鍛えます。

相剋は相手を鍛える

ときには、相手を励^{はげ}ましたりすることもあるのです。いつも「お母さんここはこうしないとダメじゃないの」とか、「この時間に遅れたら一緒に行かないわよ」とか、いつも親に対して、注意や文句をつけている子供がいるとしても、その子が親を嫌いだとは決まっていませんよね。

むしろ親に対して、何かにつけて厳^{きび}しいことをいうのは、“親思い”ゆえにそうなるのかもしれないのです。

『相剋』だから、悪い関係だとは決まっていません。

『相剋』に、よいとか、悪いとか、ないのです。

このことは上級生になるに従って理解するようになります。

ゆえに、まずは〔よい〕〔悪い〕を除いて考えます。

相手に反発したりするなかには『鍛えよう』『正そう』

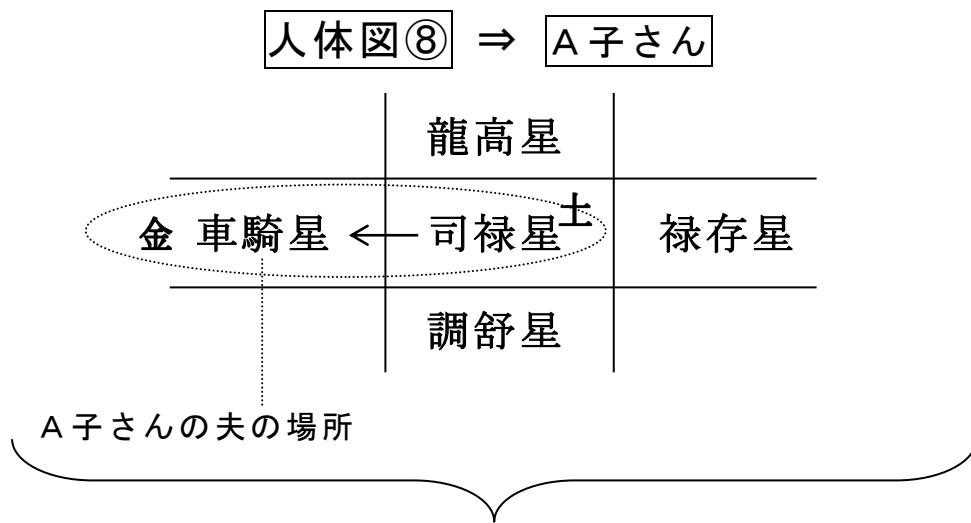
とする思いが横たわっていると考えるわけです。

そういう関係だな、と、思っ頂くと良いでしょう。

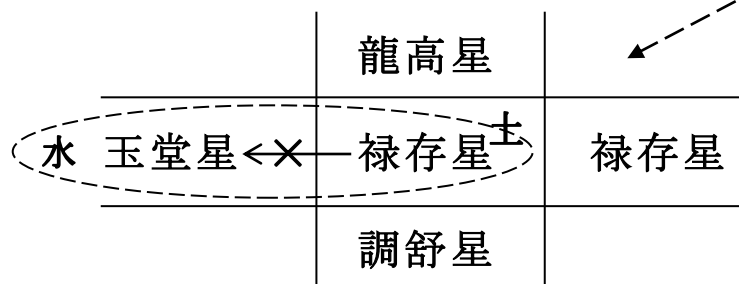
そして、『相剋』に付け加えておかなければいけないことでは……特に夫婦の場合の相剋は「愛情」とも考えるのです。

特に夫婦の場合 ⇒ 相剋は愛情とも考える

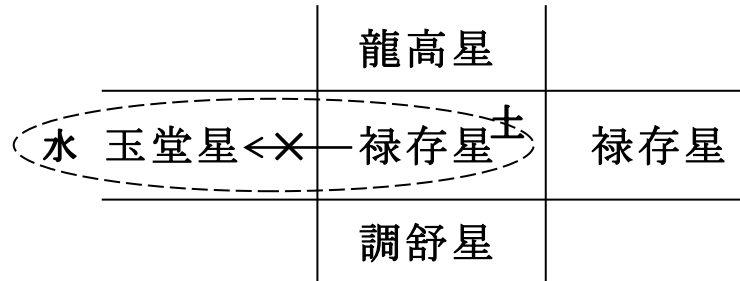
⇒ A子さんは **配偶者と相生関係** です。



〔たとえば〕 人体図⑧ を **相剋** で書くと ⇒ 人体図⑨



人体図⑨ の命式は、A子さんとは別のご夫婦です。



主星は〔禄存星〕の土性です。

配偶者の場所は〔玉堂星〕の水性です。

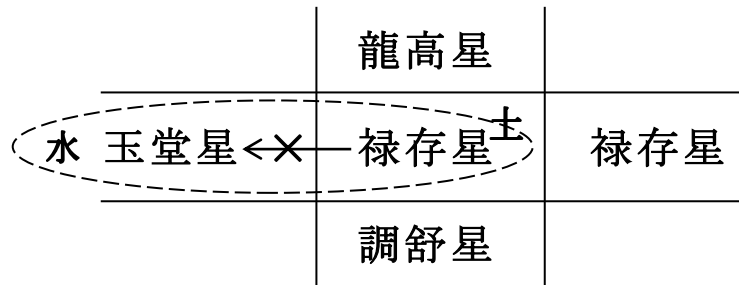
この夫婦は（土→×水）と相剋関係になっています。
夫婦の場合における『相剋』というのは、「愛情」ともいえます……言葉を替えれば、もう少し激しい感情が両者の間に芽生えることになるのです。

【二星相関変化法】をやりましたときに『相剋関係』になっていると〔星同士がぶつかり合って、葛藤が大きくなります・膨らみます〕という意味が出てきました。

そこにはチョット強い感情が芽生えてくるのです。
それが夫婦の場合ですと「愛情」という姿で現れるようになります。

そのときに、人体図のなかでの『相剋』の方向が重要になります。

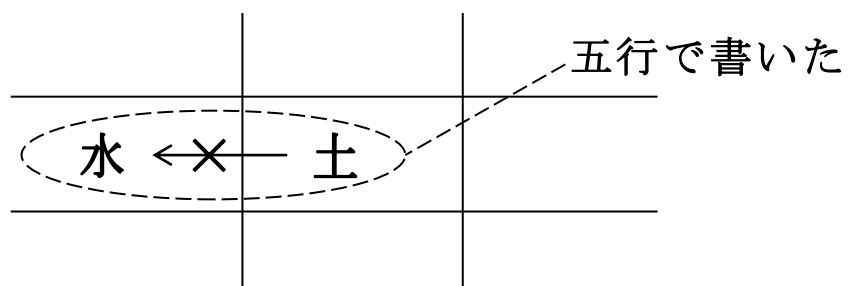
人体図⑨ 主星の土性が、配偶者の水性を剋しています。



この人体図は配偶者が水性です。

この『相剋』は「自分が相手を愛したい」という人物になります。

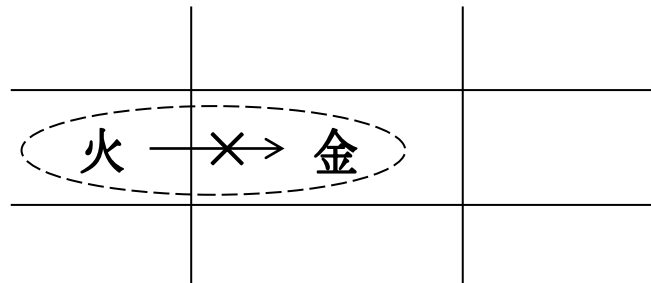
人体図⑨ ① 「自分が相手を愛したい」



そして、『相剋』矢印の向きが逆になっていれば……
五行はなんでも構いませんよ。 ➡

〔たとえば〕主星が金性の人で、配偶者の場所に火性があれば（火→×金）と、相手から主星が剋される姿です。

人体図⑨ ⑧〔相手から自分が愛されたい〕



この主星の人物は〔相手から、自分が剋されたい〕と書いてあります。相手から^{きび}厳しくされたいのです。この人自身が相手から剋されたいのです。

〔相手から剋されたい〕というのは、愛情と考えますから、人体図には、相手から愛されたいと書かれているわけです。

相手から愛されたい

そういう人体図です。

人体図⑨ ③ のように（火→×金）と、主星が相手から剋されていたら、この人は相手から愛されたいのです。自分が相手を愛するよりも、自分のほうから相手を求めるよりも、[相手から求められたい]のです。

人体図⑨ ④ の人は、相手から愛されるよりも、自分のほうから相手を愛したいのです。このように、矢印の向きによって、愛情にも二種類あるわけです。

④と③は特に夫婦関係の観方ですが、異性関係の場合であれば、このような観方をすることができます。

人体図⑨ ③のように（火→×金）と、妻の場所、あるいは、夫の場所から、自分自身が剋されている人は、相手から強く求められたり、相手から強く言い寄られると弱いのです。

ところが **人体図⑨** ④の人は、自分のほうから相手を愛したいわけですから、自分から積極的に相手に対して

愛情を注ぎたいのです。

それなのに、逆に相手から強く愛情を迫られたりすると、かえって嫌になってしまいう傾向をもちます。

自分のほうから、言い寄りたいのに、相手から言い寄られると、かえって冷めてしまうのです。

おわかりになりますでしょうか……？

「自分のほうから言い寄っていくのか……」あるいは「相手から言い寄られるのか……」それは相手の星を見てから、決めたほうが良いかもしれませんね。

ですから、「この人に、強く言い寄ると、かえって貴方を嫌になっちゃう、貴方のことがウザッタクなりますよ」とか、「この人には、強く言い寄ったほうが、なびきますね」とか、そういう占いできるわけです。

単に「愛情」といっても、「愛している」という言葉にも、自分のほうから相手を愛したいのか、相手のほうから愛されたいのか……この二種類あるわけです。

「私は愛している」 そのように言ったとしても……

『相手から愛されたいのを求めている人』

「自分のほうから、相手を愛したい人」

という人がいるわけです。

人体図における〔矢印の向き〕は、その違いを意味しているのです。

人間関係は、誰でも相手の全部が好きとか、全部が嫌いとか、それはまずないでしょう。

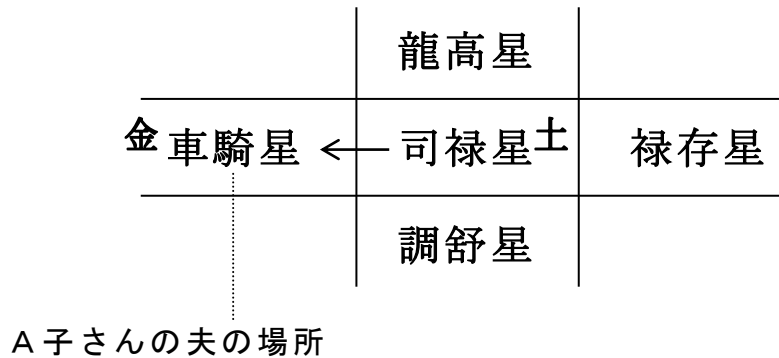
この部分は気に入っているけど、こういうところは嫌いだとか、それを深く読んでいくことで、答えが出てくるわけです。

☞ 『相生関係』です。

本来『相生』は助けるような関係といったわけです。

相生 ⇒ 助けるような関係

人体図(1)相生 ⇒ A子さん



この人体図のなかでいえば、(土→金)と、主星が金性を生じています。人体図の『相生』の姿はAさんが〔配偶者を助ける〕〔面倒を^み看る〕と書いてあります。

そうしますと、人間関係においては、Aさんが相手を助ける・相手の面倒を看る。

そういう意味だと考えればよいわけです。

相手を助ける、面倒を見る

A子さんが（土→金）と夫を助ける・面倒を見る、と書いてあるのは、A子さんの人体図のなかだけの話であって、夫の人体図のほうは、妻を助けると書いてあるとは、決まっていないわけです。

この相生の話は、あくまでA子さんの人体図のなかでの姿です。

——彼女の人体図の相生の意味を少し補足しますと、A子さんは相手を助けるとか、面倒を看たりするのは、当たり前のことだと思う人です。このようにいえます。

相手を助ける、面倒を看て当たり前と思う人

A子さんの人体図にそう書いてあっても、夫の人体図にもそのように書いてあるとは決まっていません。

夫は妻に助けられることを、望んでいないかもしれないわけです。

それゆえに、この『相生』の話は、A子さんの人体図についてだけの話ですよ。

A子さん自身が、夫を助ける、夫の面倒を見たりするのは、当たり前だと思う人です。ということです。

このような視点で考えますと、『相生』がよい場合もありますが、悪い場合もあるのです。

⇒ 悪い場合を考えます。

A子さんは（土→金）（土→金）と、一生懸命に夫を助けます。

普通に考えて、一生懸命に相手を（助ける）（助ける）となると、助けられている相手をどのような状態にしますか？

子供に当てはめてみますと、「乳母日傘」^{うば}乳母に抱かれ^{ひがさ}日傘をさしかけられなどして大事に育てられる。“過保護”の状態と言えなくもないわけです。

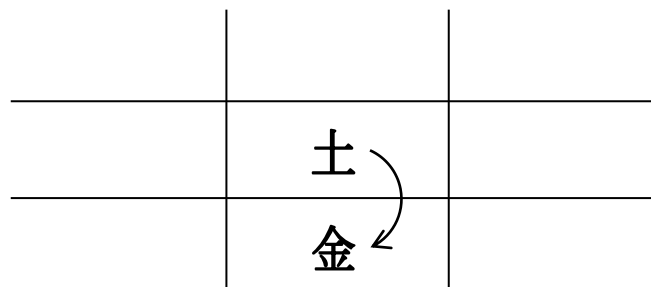
助けることがよいとは決まっていないのです。

相手のことを一生懸命やってあげたおかげで、相手を過保護にしてしまって、相手の良さを^{つぶ}潰してしまうということは多々あります。

相手を過保護にした結果、相手の才能を伸びなくしてしまう。そういう可能性もあり得るわけです。

〔たとえば〕 **人体図(2)** のように主星が（土→金）と、子供を相生している親は、「子供を助けたり、面倒みて当たり前だ」と思う人といえます。

人体図(2)



子供の場所・第二命星

一生懸命に子供の世話を焼くわけですが、やり過ぎてしまって、過保護にして育ててしまえば、子供自身の自立心を失^{うしな}わせたり、子供の才能を伸びなくさせたりと、過保護はそういう可能性をもっています。

成人であっても、^{きび}厳しく接してあげたほうが、立派な人物になります。という相手もいるのです。

どちらが良いのか、それは相手の人体図によるのです。

☞ **人体図(1)** ⇒ **A子さん** の夫を“過保護”にしてしまうという……続きがあります。 ➡

(土→金) (土→金) と、一生懸命に夫を助けて——、朝から晩まで面倒を看たら、夫はどう思いますか?? うるさいな、うっとうしい、と思うかもしれないですよ。

彼女は一生懸命に面倒を看るあまり——、

「あなた、今日は何時に帰ってくるの」

「明日は、何時にご飯の支度をすればいいのかしら」

ずーっと、そのようにやっていたら、夫を束縛^{そくばく}することになります。

“面倒看る”といえは、聞こえはいいのですが、面倒を看すぎると、相手を束縛することにつながります。それゆえ『相生』は、相手を過保護の姿にするとか、束縛する可能性があります。

過保護は、相手を束縛する可能性がある

A子さんのように (土→金) (土→金) と、夫を生じる人体図の人は、それが良く出てくれば、面倒見のよい奥さんです。

悪く出てしまうと、夫を自分の管理下に置こうとする傾向^{けいこう}があるのです。

相手を過保護にするということは……まるで親が子供を過保護にするように、子供を自分の管理下に置いてしまう。という状況をつくってしまうことにもつながりやすいわけです。

過保護で自立心を摘み取ってしまうとか、相手を束縛して、窮屈な思いをさせてしまいます。

『相生』には、このような意味合いが横たわっているのです。

それゆえに、二人のあいだに『相生そうしょう関係』があるのを観ただけで、「あなたの結婚うまくいきますよ」とは、決まっていないわけです。

『相生』の部分だけを観て、「よいとか」「悪いとか」を論じることはできないのです。

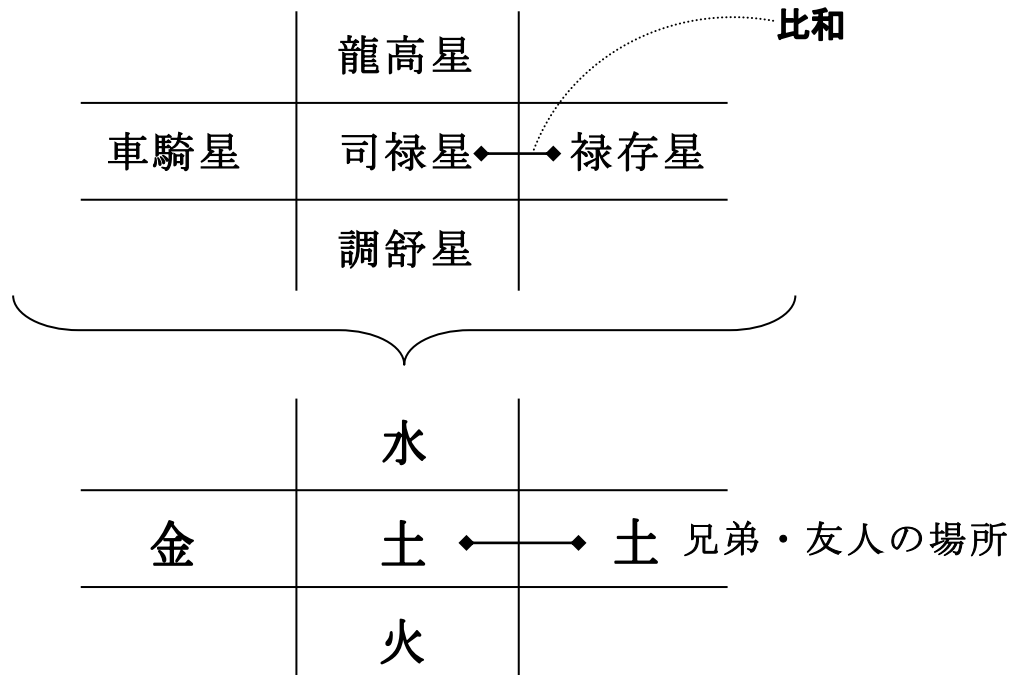
宿命全体を総合的に観ることで判断できるようになります。

☞ 『比和の関係』です。

比和は、友達のような関係だと習ったわけです。

比和 ⇒ 友達のような関係

人体図《1》比和 ⇒ A子さん



『比和』というのは、おなじもの同士です。

Aさんは、自分も土性で、兄弟・友人も土性なので、自分と兄弟・友人が比和になっています。

Aさんは、兄弟・友人との仲間意識の強い人といえます。自分とおなじという感覚です。

『比和』は、友達のような関係と考えてよいのです。

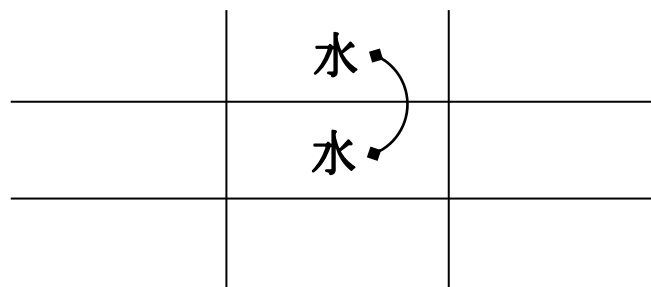
友達のような関係

自分と親が『比和』になっているとすれば、自分と親は友達のような関係と思う人です。

親に対して、同等意識をもつ人です。 人体図《2》比和

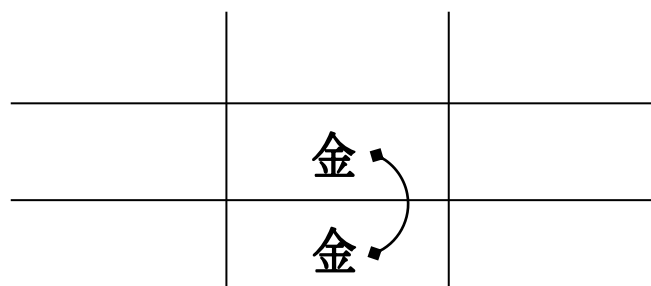
人体図《2》比和

親の場所・第四命星



自分と子供が比和になっていれば、自分は子供とは、友達みたいな関係になるわけです。 人体図《3》比和

人体図《3》比和



子供の場所・第二命星

☞ 『比和』には『相生』『相剋』のように、決まった^{しるし}印はありません。好きな記号をつかってよいのです。

等しい = でもよいのです。

そうしますと、先ほどもお話しましたが、あくまでも自分の人体図のなかだけでいえる話ですよ。

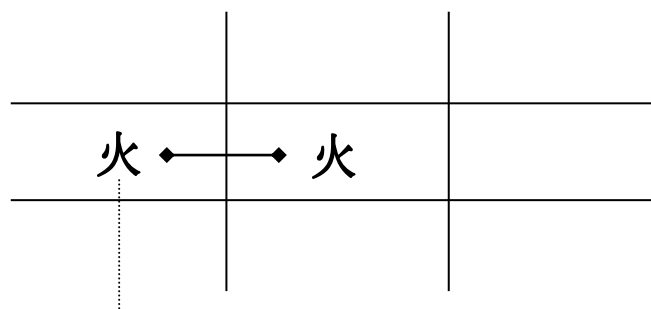
友達のような関係

〔友達のような関係が理想的。それが当たり前だと思う人〕

このように考えておくとよいでしょう。

〔たとえば〕 ご夫婦で『比和』になっていたら、そのご夫婦は友達みたいな関係なら、理想的といえますし、そのように思う人です。あるいは、それが当たり前だという感覚をもつ人という意味になります。

人体図《4》比和



配偶者の場所・第一命星

そうしますと、**人体図《4》比和** は、本人と『比和』で友達のような関係なので、友達みたいに仲が良いのかといえば、そうだとは決まっています。

友達みたいに仲良く暮らせて、良い夫婦関係を築くのでは——そのように思い浮かべるかもしれませんが、それが良いと決まっていないのです。

友達のような関係というのは、相手と対等の関係だといえます。対等はライバルでもあるのです。

友達といえば、聞こえはよいですけど、友達みたいに接するという意味では、相手と対等の関係を築こうとする人物だともいえるわけです。

つまり、友達というのは、上下の差はなくて、自分と相手が対等なわけです。

自分の主星が火性で、夫の場所も火性であれば、自分と夫の関係は、対等だという意味にもなります。

ゆえに『比和』というのは、自分と相手が対等であるという意識をもつようになります。

自分と相手が対等であるという意識をもつようになる

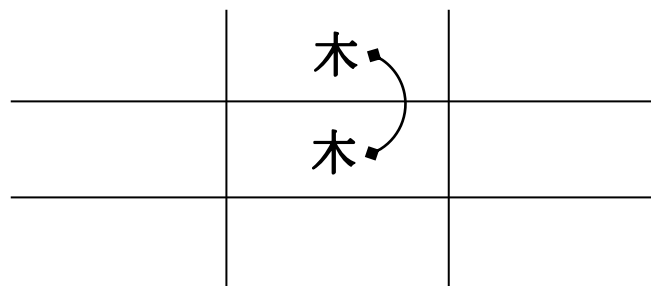
自分の人体図のどこかに『比和』をもつ人は、比和になっている箇所^{かしよ}で、相手と対等であると思う人です。

〔たとえば〕親と比和になっている人体図の人がいたら、親と友達のような関係だといえは聞こえは良いですけど、親に対等意識を持つ人です。

親に対等に接しようとする人です。

人体図《5》比和

親の場所・目上の場所〔第四命星〕



そうしますと、親に対して、あるいは目上に対しても、対等の関係をつくらうとしたときに、目上の人物から目下の相手を見たらどうでしょう……。

自分よりも、目上の人と対等に付き合おうとするのですから、目上の人物からは、〇〇は生意気だ、僭越^{せんえつ}だと受け取られてしまうこともあり得ます。

つまり『比和』が良く出るのか、悪く出るのかについては、これだけではわからないのです。

良く出る場合もあるけど、悪く出る場合もあるのです。

目上からは目下のくせに生意気だと、親からも子供のくせに生意気だと、思われるかも知れないのです。

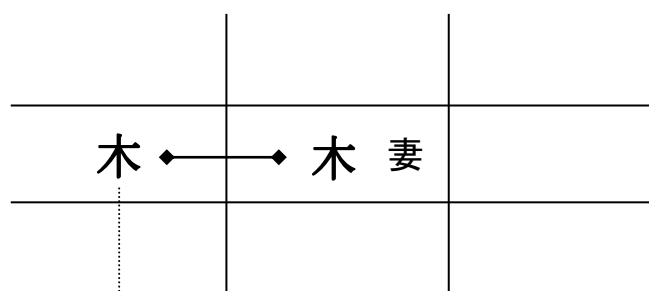
でも逆に、友達のように接してくれて“嬉しい”と、思う親もいるかもしれません。

そのときに、親が子供をどう思っているのかは、親の人体図を観ないとわかりません。

親がどう思っているのかは、親の人体図次第です。

〔たとえば〕 ご夫婦で『比和』です。

人体図《6》比和



配偶者の場所・第一命星

五行は木性に限らず、なんでもよいのです。

五行はなんでも良いのですが、**人体図《6》比和**の五行は木性です。(自分と配偶者はおなじ)

主星の妻が木性で、配偶者の場所も木性です。

この人体図のように、自分と夫が『比和』になっているとすれば、このご夫婦の結婚生活がうまくいくためには、二人の間に“なにか共通の目的意識”とかが、必要になります。

二人の間に共通点、または共通の目的があると良い

相手との間に、共通点、共通の目的があるとうまくいくようになります。

人体図《6》比和のように、自分は木性で、夫の場所も木性だと書いてあれば、自分と相手がおなじです。ゆえに、ご夫婦で共通の趣味とか、目指すものがおなじとか、二人の生き立ちが似ているとかでも結構です。(共通する何かです)

私の小さい頃に両親が離婚して、すごくつらい思いしました。夫のほうも、両親が離婚したとか、あるいは両親が早く亡くなった。それで苦労しました。

このように、自分と相手のあいだに、なにか共通点があるほうがうまくいくのです。

ご夫婦でも“夫が目指すものはお金”です。

妻が目指す世界は“精神的な豊かさ・人間性”です。

そうなると、違う世界といえますよね。

妻はお金を目指しています。

私もビジネスでお金を儲けようと思っています。

お金とかで、二人で商売して頑張ろうとかであれば、共通の目的になります。

あるいは、共通の敵でもよいのです。

困った問題が起こって、夫の兄弟と揉めて^もいます。

「私は夫の兄弟が嫌いですし、夫も自分の兄弟を嫌っています」それでもいいわけです。

『比和』のご夫婦には、このようにお互いの共通点・共通の目的意識があると、夫婦仲がうまくいくのです。それゆえに、ご夫婦が『比和』になっている場合は、相手との共通点が無いと“逆に悪く”出ます。

『比和』は、相手と対等関係なので、相手との共通点がないと“ただ相手と張り合う”という出方になって

しまうことがあります。ライバル意識です。

比和の関係は、競争相手でもあるからです。

共通点がないと、相手と張り合うようになってしまう

『比和』 ここで終わります。

このようにして『相剋』『相生』『比和』を観ていきませんが、いずれの関係でも『相生だからいい関係』——『相剋だからうまく行かなくなる』——それらの事柄は、『相剋・相生・比和』だけでは決まらないのです。人体図のすべての星を観て、総合的に決めることになります。

今までの説明は『相剋』『相生』『比和』の基本がいろん概論とおもってください。

参照・概論 [全体にわたって大要を述べたもの]

【初年】 49回目【人体図の観方】 『生剋比』 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 50回目【人体図の観方②】 です。